

2021年5月31日

あおぞら投信株式会社

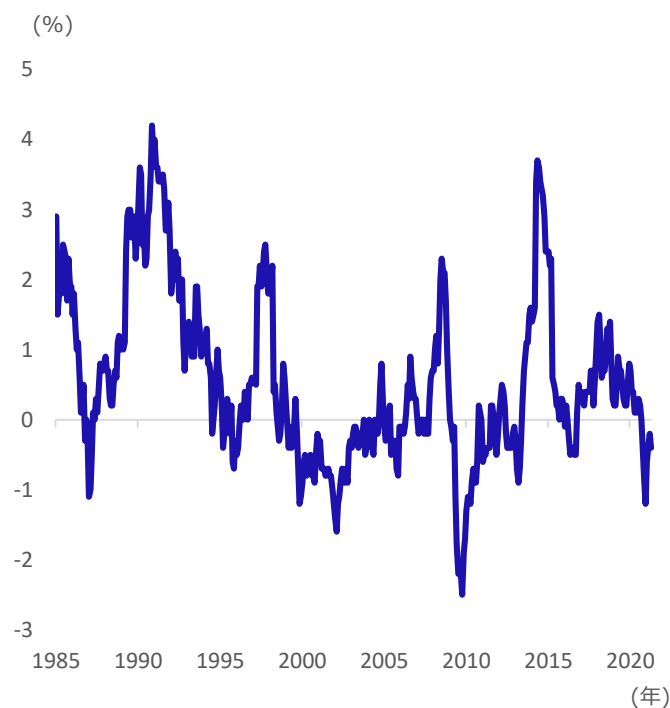
「モノ欲しさ 人は働き 得た時代 持たずにシェア 身軽な時代か」

20世紀はインフレの時代とも言えるでしょう。1990年の中東戦争時に世界的な金利上昇を見たときに、1989年の日本株式市場のバブルのピークと重なりながら考えた言葉が、『大量消費型物質主義』というものでした。戦後の日本の高度成長期には、三種の神器という電化製品がありました。白黒テレビ、洗濯機、冷蔵庫が昭和の時代の象徴だったのです。これに自家用車が加わり、モノを求めるヒトの気持ちがかねの流れとして動いたのです。

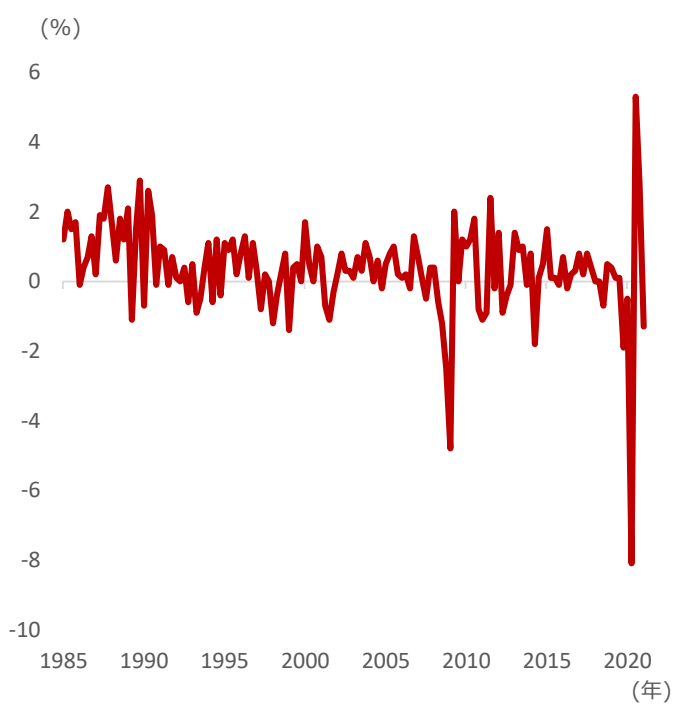
そして1990年代半ばのバブル崩壊の状況下、『21世紀の世界経済の課題はインフレではなくデフレになる』と唱えました。ただし“デフレ”に関しては誰も経験がないのでピンと来なかったのです。実際に21世紀に入り、モノに関しては、持つことから使うことへとシフトが起こります。ITの発展とともにクラウドが登場すると、ヒトの発想も一段と変化していきました。またモノを作る側では、新興国でのモノ作りが発展することで供給力が爆発的に上昇し、低価格での提供が可能となりました。ここまでの状況をデフレ（deflation：物価下落）ではなくディスインフレ（disinflation：物価上昇の低下）と表現する場合がありますが、これも全体ではなくミクロで見る必要があると思います。さらに言えばスタグフレーション（stagflation：経済活動の停滞と物価の持続的な上昇）のリスクがゼロではありません。このような状況下で金融・財政政策の視点をどこに向けるべきなのかという問いかけになります。消費者にとっての消費の元となる賃金の問題に還ってくるのではないのでしょうか。21世紀の経済課題は20世紀とは異なることをもっと考えるべきなのです。

柳谷俊郎

日本のCPI(前年同月比)



日本の実質GDP成長率(前期比)



注：日本の実質GDP(前年度比)について、1985年～1994年のデータは2011年基準支出側GDP系列簡易遡及版を使用。

出所：Bloomberg・内閣府HP統計データを基にあおぞら投信が作成。

本資料は情報の提供を目的としており、何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料は信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。ここに示された意見などは、本資料作成日現在の当社の見解であり、事前の予告なしに変更される事もあります。投資信託の取得に当たっては、投資信託説明書(交付目論見書)等の内容を必ずご確認の上、ご自身でご判断ください。

商号：あおぞら投信株式会社 金融商品取引業者：関東財務局長(金商)第2771号

加入協会：一般社団法人投資信託協会 ホームページ・アドレス：<http://www.aozora-im.co.jp/>